

科学的エビデンスに基づく「スポーツの価値」の普及の在り方に関する委員会
(第24期・第11回) 議事要旨

1 日時 令和2年1月29日(水) 10:00~12:00

2 場所 日本学術会議 2階 大会議室

3 出席者: 渡辺 美代子(委員長)、山口香(副委員長)、高瀬 堅吉(幹事・記)、
田原 淳子(幹事)、遠藤 謙、神尾 陽子、酒折 文武、萩田 紀博、
來田 享子

(欠席) 井野瀬 久美恵、川上 泰雄、喜連川 優、田嶋 幸三、福林 徹、
美濃 導彦、山極 壽一

(事務局) 高橋 雅之、酒井 謙治、牧野 敬子、實川 雅貴

4 議事要旨

(1) スポーツ委員会の今後の予定

資料3に基づき、スポーツ委員会の今後の予定について説明があった。6/18(木)に学術フォーラムを開催予定である。4/1(水)に提言を査読に提出予定である。

(2) 提言案の内容について

資料1に基づき、提言案について議論した。要旨は以下の通り。

- ・提言執筆担当者より、各担当部分について説明があった。
- ・各委員の執筆部分は、提言案完成時に、文案全体を鑑みて最終的に表現が調整されることとなった。
- ・スポーツ振興センター、国立スポーツ科学センター等に向けた提言であると、実効性を備えた提言になる。また、人材には限りがあるので、民間との連携なども視野に入れて提言を行った方が良い。
- ・文案はエビデンスを適切に引用して執筆すべきであり、図等も適宜挿入すべきである。
- ・障害、障、障がい用語の統一について、公文書では「障害」を使用しているため、提言案でも「障害」と記述する。また、提言の中で、「障害」を使用する理由を記述する。
- ・耳目を集めるコピーを副題または題として記載する。
- ・「1はじめに」に書かれている内容と各提言が対応するかたちで書いた方が良い。
- ・「1.はじめに」の次にスポーツの歴史を含めた本提言の必要性の章を作り、最初の案の通りとする。その歴史の流れで、本提言の提案となるキャッチコピーを説明する。・「2 国のスポーツ政策の推進に必要なエビデンス(科学的根拠)とは」を執筆する際に、Policy-Based Evidence Making にならないために、エビデンスのレベルを重視するという旨の

文案を執筆した。

- ・「2 国のスポーツ政策の推進に必要なエビデンス（科学的根拠）とは」の「③エビデンスのレベル」以外の文章は、回答に記載したほうが良い。
- ・「3 エビデンスに基づくスポーツ（データ駆動型スポーツ）」では、VARだけでなく、パラスポーツの用具についても記述があった方が良い。
- ・「4 科学的知見によるスポーツの変革」は、適宜文献を引用し、文案を完成させる。
- ・「4 科学的知見によるスポーツの変革」で、幼少期のスポーツ経験が健康に与える影響のエビデンスについて、スポーツイングランドにある記載を参考に加筆する。
- ・「4 科学的知見によるスポーツの変革」で、パラスポーツの歴史、背景、障害者がスポーツに参画することのメリット等を加筆する。
- ・「5 スポーツの価値とリスク」について、子供の多様なスポーツへの関わりを促進する環境の担保については文章中で触れたほうが良い。
- ・「5 スポーツの価値とリスク」について、スポーツ選手が受けるストレスと精神疾患を例に、選手のメンタルヘルスを維持、増進する環境の担保について加筆したほうが良い。
- ・「5 スポーツの価値とリスク」の「「する」スポーツと「見る」スポーツの調和」について、可視化する技術が「見る」スポーツを可能にした。
- ・「5 スポーツの価値とリスク」の「(4) eスポーツの現状と拡がり（人口、市場、社会的意義）」に記載されている時間制限装置の実装については、「十分に議論して検討されるべき」という表現にしたほうが良い。
- ・「5 スポーツの価値とリスク」について、環境の担保、モニタリング、テーマターゲット等について加筆する。
- ・「6 提言」では、エビデンスのレベルを考慮したエビデンス取得の必要性や、そのための専門機関の設置など、具体性をもった提言としたほうが良い。
- ・提言案の修正は2/12（水）までに行い、2月末に提言案を完成させる。

(3) 回答案の内容について

本日の提言に関する議論を踏まえて回答案も修正する。

以上